

マスターデータ管理 (MDM) をクラウドに移行する4つのメリット

クラウドへの移行で柔軟性、拡張性、スピードを実現

データ要件が複雑で、初期の段階で大規模なカスタマイズが必要な場合にはオンプレミス型のマスターデータ管理 (MDM) が最適であることに疑問の余地がありません。しかし、データ要件がそれほど複雑でないケースでは、オンプレミス型のようなハードウェアの購入/保守コストが不要なクラウドベースのMDMを導入するところも増えています。

クラウドソリューションは、サブスクリプション式のSaaS (サービスとしてのソフトウェア) ライセンスモデルを採用しているため、企業のアジリティを高め、迅速な導入ができるのに加え、ビジネスニーズに応じてストレージ量やライセンス数を調整することも可能です。

それに沿って移行プロジェクトを進めなければ、クラウドソリューションのメリットを享受することはできません。ずさんな計画では、失敗に突き進むようなものです。

適切な計画を策定し、企業に必要なマネージドクラウドサービスを確立できれば、以下に述べる4つのビジネスメリットを達成し、基幹データを最大限に活用して、自信を持って素早く業績を伸ばすことができます。



1 柔軟性の向上とコスト削減

正直に申し上げます。マスターデータ管理ソリューションの導入により、様々な方面でビジネスメリットを得られることに異論はないとしても、オンプレミス型の場合は膨大な初期費用がかかり、二の足を踏んでしまう企業が多いのが現状です。柔軟なサブスクリプション方式のオプションであれば、マネージドサービスを購入する手間を省き、必要に応じてソフトウェアを使用できるようになります。

柔軟なMDMプラットフォームを活用して、基幹データの相関関係を識別/作成/管理できるようになるのです。マスターデータ管理の最大の強みは、クライアント様のニーズに応じてソリューションを柔軟にカスタマイズし、すぐ実装できる点です。ソリューションを通して、ソフトウェア、インフラストラクチャ、マネージドサービス (バックアップ、障害復旧、アップデート) を素早く導入できます。



2 迅速な実装 & 優れた拡張性

クラウドベースのMDMは、既存のIT環境にシームレスに統合し、ストレージ量や処理機能、ソフトウェアライセンスの数を必要に応じて調整できます。また、サーバーの設置が不要で、必要な技術を素早く展開し、事業目標に向けた取り組みを迅速に進めることができます。

クラウドベースのMDMの場合、主に2つの技術を通して業務効率化と競争力の強化を図ります。その技術とは、設定管理機能と自己修復 (セルフヒーリング) 機能です。両方の技術を活用することで、テクノロジースタックの構築にかかる期間を数週間から48時間程度まで短縮できます。また、サーバーが停止した場合も、手動介入なしで自動的にサーバーを置換できるため、性能とサービス稼働時間が向上します。



3 高度なセキュリティ機能

過去にはクラウドのセキュリティリスクを懸念し、保有データを自社のファイアウォールの外で保管することにためらう企業も見られました。しかし、現在のクラウドベースのMDMソリューションは、Microsoft AzureやAmazonなどの大手クラウドサービスプロバイダーが提供しています。こうした大手プロバイダーは、セキュリティ対策に大量のリソースを投入しており、ほとんどの企業が自社で実施できる範囲を超えたセキュリティを実現しています。セキュリティに関して根拠のない心配をするよりも、社内で明確なクラウド戦略を策定し、セキュリティ担当チームが適切にクラウドを管理し、データのセキュリティを確保できるように配慮することが大切です。



4 高額なカスタマイズが不要

クラウドベースのMDMの導入を決定した場合は、カスタマイズをせずにビジネスに必要な機能を活用できる柔軟性に優れたプラットフォームを選択しましょう。クラウドベースのパッケージにも、統合作業が必要なコンポーネントを含むものがあります。一方で、Stibo Systemsのクラウド型MDMソリューションのように、統合作業を行わずにすぐ実装できるソリューションもあります。

カスタマイズが不要であれば、コストを抑えることができるだけでなく、導入までの期間やアップデートサイクルも短縮できるので一石二鳥です。

ビジネスファースト

サブスクリプション式のSaaSライセンスモデルならITコストを削減し、迅速な実装と優れた拡張性により、必要なデータをタイミングよく取得できるようになります。Stibo Systemsのクライアント様は、ビジネスニーズを最優先する「ビジネスファースト」により、お客様に優れたサービスを提供する「顧客中心」のアプローチを確立して業績を伸ばしています。

MDMプログラムの効果を効果的に伝える詳しい方法については、Eメール (info@stibosystems.com) でお気軽にご相談ください。公式ウェブサイト (stibosystems.com) でも詳細をご覧ください。



CIOは、セキュリティ担当チームがクラウドセキュリティに関する根拠のない懸念から、クラウド移行に反対することのないように配慮する必要があります。不安が増長すれば、機会損失を招くだけでなく、コストを浪費することにもなりかねません。”

Smarter with Gartner「クラウドは安全?」, 2018年3月
ガートナー社バイスプレジデント ジェイ・ハイザー 著

About Stibo Systems

Stibo Systems, the master data management company, is the trusted source of MDM solutions based on a unique business-first, people-centric approach. Our solutions are the driving force behind forward-thinking companies around the world that have unlocked the strategic value of their master data; empowering them to improve the customer experience, drive innovation and growth, and create an essential foundation for digital transformation. Stibo Systems is a privately held subsidiary of the Stibo A/S group, founded in 1794, and is headquartered in Aarhus, Denmark. For more information, visit stibosystems.com.